

第6回札幌恵庭自転車道線恵庭工区延伸ルート 検討委員会

ニュースレター No.7

2010年12月8日発行
発行 / 恵庭市

「第6回札幌恵庭自転車道線 恵庭工区延伸ルート検討委員会」が開催されました

「札幌恵庭自転車道線 恵庭工区延伸ルート検討委員会」の第6回検討委員会を、去る11月25日(木)15時から恵庭市市民会館にて開催し、委員12名と本委員会のアドバイザーである、北海道大学工学研究院の岸邦宏教授が出席しました。

提言書(案)の説明の後、意見交換を行いました。



整備イメージ

- ・危険と思う箇所は注意喚起の標識を設置するなど、自動車対策が必要である。
- ・着替えができるような踏み台つきトイレなどを設置してはどうか。
- ・花や景色を見るための椅子設置(500メートル間隔程度)を行ってはどうか。
- ・地元の人々が作った創作物を設置することで、愛着が生まれ、更にまちづくり・みちづくりへの意欲が高まるのではないかと懸念される。
- ・ルートの中でお薦めのビューポイントの標識を設けてはどうか。
- ・自転車安全利用五則の恵庭版を作ったほうが良いと考える。
- ・休憩所内に食事スペースや売店、飲み物、食べ物の自動販売機などを設置することは可能か。(事務局)公共の敷地内での設置は難しい。

ストーリーづくり

- ・市民がまちづくりの一環として維持・管理できるようなシステムを作るため、自転車道を1つの庭としたガーデンルートにできないか。
- ・ストーリーがあるまちづくりが必要である。
- ・ガーデニングによるまちづくりなど、子供たちに作業への参加を促すことが大切である。
- ・シーニックバイウェイみたいに道を走的过程中に見たり感じたり出来ると良い。それには必ず物語がある。
- ・関わりを持つ事は時代を作るといふか、歴史を作っていくことで、子供達にもそれが伝わる。
- ・自転車道路がつくられた後の活動などは、市の問題として考えていかななくてはならない。

利活用イメージ

- ・新たな施設整備は管理コストが増大するため、既存施設の活用が有効である。
- ・無人の施設は、悪戯される恐れがあるため、有人の既存施設へ誘導する方が良く考える。
- ・ジャガイモ掘りサイクリングや、ジギスカンサイクリングなどを企画したイベントもある。農村地区をルートの一部としているのだから、このような行事を行うことも利用増進・活性化に効果的である。
- ・イベントも重要であるが、家族での利用など、少人数で日常的に使いやすいことも重要である。
- ・体育協会では駅伝を行っているが、街中でレースに適した道が無いと、距離が短く、周回コースとしている。道路横断はあるが、自転車道路が整備されれば、駅伝イベントのルートとしても利用できる。

今後に向けて

- ・盤尻ルートなど議論で出されたルートは「今後に向けて」の提案の1つに載せるべきであると考える。
- ・講演会などを企画し、市民の情報・意見交換の場を設けながら、進めていくべきである。
- ・ルートができて、何年後かの評価を行う組織が必要である。検討委員会のメンバーが、3~5年後にその役割を担えたらと考える。
- ・市民との協働(実際に手を動かすこと)が大切である。



島松地区整備イメージ



柏木川沿い整備イメージ



恵み野地区整備イメージ



恵庭地区整備イメージ

次回の第7回委員会は、12月20日開催を予定しています。

「札幌恵庭自転車道線恵庭工区延伸ルート検討委員会」に関するお問い合わせは

【委員会 事務局】 恵庭市 企画振興部都市計画課 | 〒061-1498 恵庭市京町1番地 | 0123-33-3131
【委員会 サ-バ-】 北海道札幌建設管理部 千歳出張所 道路係 | 〒066-0067 千歳市桂木6丁目1-28 | 0123-23-4191